



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 北海道大学総合博物館ニュース                                                                    |
| Author(s)        | 藤田, 正一                                                                            |
| Citation         | 北海道大学総合博物館ニュース, 12                                                                |
| Issue Date       | 2015-07-07                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/59498">https://hdl.handle.net/2115/59498</a> |
| Type             | book                                                                              |
| File Information | hakubutsukan12.pdf                                                                |





THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM NEWS

# 北海道大学 総合博物館ニュース

## 新しくオープンした2階常設展示

2006年はクラーク博士生誕180周年、没後120周年、さらに、札幌農学校育ての親・佐藤昌介生誕150周年、そして、本学創基130周年という節目の年に当たります。北海道大学総合博物館では、この節目の年を記念する事業を企画しておりますが、このたび、この記念事業の一環として、最初の企画であります、念願の本館2階の常設展示を2005年11月3日から公開開始いたしました。展示のコンセプトおよび詳細に関しましては、下澤梶夫電子科学研究所教授を委員長とする全学の委員よりなるワーキンググループでご検討いただき、「ユニバーシティ・ラポー知を生み出し伝承する」として本学の研究方法を主題とした展示といたしました。

文化の日・11月3日のオープニングセレモニーには、ソルボンヌ大学総長・ジャン＝ロベール・ピット博士御一行様、北海道大学理事、部局長の皆様、総合博物館展示ワーキンググループの皆様が休日にもかかわらず、お忙しい中、駆けつけてくださいました。井上芳郎副学長にはご自身が博物館の設置準備委員だった頃の思い出話も含めて、暖かい祝辞を頂戴いたしました。

今回の2階常設展示の追加により、本総合博物館の展示は格段に充実したものとなり、入館者数に見合った展示になりつつあると思います。振り返って見ますと1997年に、貴重な学術資料の収蔵と、それらを有効利用できるように博物館を設置せよとの学内の強い要請により、旧理学部本館を博物館とすることが評議会決定されました。これを受け、1999年にモデル展示として3階部分にささやかな展示を開始したのが始めの第一歩でした。そして、2001年には北大創基125周年記念展示として1階南部分

の展示を完成し、規模が格段に拡大しました。以来、市民や学生に公開してきましたが、本年までに、年平均5万人、総計20万人を大きく超える皆様にご来館いただいております。

前述のように、今回の展示の企画に当たっては、全学から選ばれましたワーキンググループにより、本館の全展示を俯瞰しつつ、2階展示のテーマを決定していただきました。その結果、2階の展示テーマを「ユニバーシティ・ラポー知を生みだし伝承する」とし、過去から現在に至る大学キャンパスの研究手法の移り変わりを紹介しよう、ということになりました。全館を通しますと、3階が研究材料となる学術資料展示、2階が過去現在未来をつなぐ研究手法の移り変わりと伝承の展示、1階が完成した研究成果の展示という流れになります。1階から順に見ますと、現在このような成果が得られている。それらの成果を生み出すにはこのような研究手法の進歩があったのだ。そして、研究の大本の材料はこのような学術資料なのだということになります。大学博物館らしい展示の流れではないかと考えております。

なお、全学が参加する展示という意味で、3階には、獣医学部学生にお願いして、獣医学部より提供されました動物の骨格標本の説明文や展示のアレンジメント等を担当していただきました。実は予算削減のための工夫でもありましたが、大学博物館ならではの展示となり、また、教育効果も大であったと考えております。作成に携わりました獣医学部3年生諸君にも感謝を申し上げます。

今後とも皆様には、一新されました北海道大学総合博物館をお楽しみいただくとともに、ご支援よろしくをお願いいたします。

藤田正一

(館長／獣医学・毒性学)



### 目次

- ページ1： 新しくオープンした2階常設展示(藤田正一)
- ページ2： 2階常設展示概要  
ミュージックいんミュージアム(天野哲也)
- ページ3： アラスカ大学博物館との交流  
協定締結  
客員教授紹介1  
客員教授紹介2
- ページ4： 第20～24回企画展示
- ページ5： 第25回企画展示  
特別展示  
第12回公開シンポジウム  
COEパラタクソノミスト講座
- ページ6： <寄稿>潜水艇による深海魚調査(アンダーソン)
- ページ7： 平成17年4月から9月までにおこなわれたセミナー・講演会
- ページ8： 平成17年4月から9月までの主な出来事  
お知らせ・お礼

Jan. 2006  
ISSUE 12

## 2階常設展示 概要

総合博物館による、北大創基130周年記念事業の最初の企画として、2005年11月3日より総合博物館2階に新しい常設展示をオープンした。

オープニングセレモニーは井上副学長始め関係各位の出席の元、北大交響楽団の弦楽四重奏、来賓挨拶、テープカットが行われた。引き続いて、下澤樞夫展示WG委員長より新展示の概要説明、各展示部分担当教員からの説明があった。

新展示スペースは、総合博物館2階南側の約600平方メートルを占める。新展示部分のタイトルは「ユニバーシティ・ラボ―知を生み出し伝承する―」とし、北海道大学で行われている、研究方法の展示を行っている。

来館者は1階の常設展示を観覧した後、一番奥の西側階段を使って2階に上がり、



北大交響楽団による弦楽四重奏

## ミュージックいん ミュージアム

北大創基130周年記念・総合博物館2階常設展示オープン記念企画として、館としては初めてのクラシック音楽コンサートを北海道大学交響楽団の協力を得ておこなった。

内容は同メンバーによる室内演奏で、シューベルト：八重奏曲へ長調 op.166. D803 からと「都ぞ弥生」である。

演奏会場となった1階「知の交流コーナー」は超満員で、来場者は約1時間の演奏をじっくり楽しんだ。またこれに先だって午前中におこなわれた開会式でも、開会を待つ30分ほどの間、モーツァルト、アイネ・クライネ・ナハト・ムジークや「都ぞ弥生」が演奏され、式場は柔らかな文化的雰囲気包まれた。

今回は、「ミュージックいんミュージアム」と題して広報し、予想以上の観客があ

新展示室には西側から入る動線となっている。最初の左右2室は、「サステナブル・キャンパス」とし、研究対象、あるいは研究活動の場として北大において持続的に用いられてきた標本・資料ならびに施設を紹介するコーナーとなっている。

次の南側2室は「考古学ミュージアム・ラボ」とし、収蔵庫・分析室の一部を公開しながらこれまで北大で行われてきたオホーツク文化研究の成果・課題を展示している。

北側手前の展示室は「サステナブル・キャンパス」の続きで、モデルバーンや厚岸臨海実験所施設の紹介、動物液浸標本、大黒島生物多様性調査の展示。この展示室奥には現在、学術資料展示の植物と昆虫が展示され、これらは将来、3階に移動予定である。

北側の次の展示室は「海洋―海を科学する」と題し、海を対象とした地球物理学・地質学・生物学・海洋天然物化学研究に焦点をあて、その研究手法の紹介を中心とした展示としている。設置されたコンピューターから研究調査に関する詳細な情報も得ることができる。

動線に沿って進んだ一番奥、東側の2部屋は右（南）側が、サロンとなっており、一画にはミュージアムショップをオープンした。北大グッズが取りそろえられており、今後、ミュージアムグッズの開発や展示図録の販売が計画されている。

左（北）側の展示室は、北大で行われている12件のCOE研究をパネルで紹介しているコーナーである。この2階展示室を抜けて3階に上がると、地球惑星系の「学術資料展示」となっている。

今回この、3階「学術資料展示」の一画



ミュージアムショップ

り、大学キャンパスで催される文化事業への期待が大きい事を改めて認識できた。今後、たとえば四季ごとにでもこのような演奏会を開きたいと考えている。

ボランティアで出演して下さった北海道大学交響楽団メンバーの方々に厚く御礼申し上げます。

天野哲也（研究部助教授／考古学）



テープカット



下澤展示WG委員長からの展示説明

に、新たに「獣医学骨格標本」室を開いた。今後とも2階、3階の常設展示は追加・改良を加えて充実させる予定である。



2階常設展示サロン



獣医学骨格標本



## アラスカ大学博物館 との交流協定締結

低温科学研究所の福田正己教授の仲介で、アラスカ大学博物館との交流協定を締結した。ロシア・サハリン郷土博物館に次ぐ、二つ目の海外協定締結博物館となった。アラスカ大学博物館は、大学博物館としては先進的な経験を持ち、日本語の館内案内もあるほど、海外からのアラスカ観光スポットのひとつにもなっており、同じ北方圏に位置する大学博物館として、今後の交流が進むことが期待される。



平成 17 年 10 月 21 日にアラスカ大学博物館の Aldona Jonaitis 館長（美術史・人類学）が来札された。藤田館長の案内により本館の常設展示を熱心にご覧になった後、交流協定が締結された。引き続いて本学中村総長との懇談を行い、大学博物館の使命や可能性について議論が交わされた。



アラスカ大学博物館 Jonaitis 館長と  
北大総合博物館藤田館長



アラスカ大博物館長と中村総長との懇談

## 客員教授紹介 1

総合博物館では、平成 17 年 6 月 1 日から 9 月 30 日まで、(約 4 ヶ月)、第 11 代客員教授として、ロシアから A. G. Bugrov 博士を招聘しました。滞在中はサッポロフキバタにおける染色体レースとサブレースの分類学的位置づけに関する実験的研究を主要研究課題として、総合博物館研究部や農学

研究科秋元信一助教授との共同研究を行いました。

9 月 16 日には、Bugrov 博士を中心とした公開シンポジウム「種分化モデルとしてのサッポロフキバタ」を開催しました。

氏名：Alexander Gennadievich Bugrov  
専門分野：昆虫学・細胞生物学  
略歴：1957 年ロシア連邦トムスク生まれ  
トムスク州立大学卒業、ロシア科学アカデミーシベリア支部ノボシビルスク生物学研究所にて PhD 取得、ノボシビルスク細胞

学遺伝学研究所にて Dr. Sci. 取得  
現在、ノボシビルスク州立大学自然科学部教授

大原昌宏  
(研究部助教授/  
昆虫体系学)



## 客員教授紹介 2

総合博物館では、平成 17 年 10 月 20 日から平成 18 年 1 月 20 日まで(約 3 ヶ月)の予定で、第 12 代客員教授として南アフリカ共和国から M. Eric Anderson 博士を招聘しました。滞在中はシロゲンゲ属というゲンゲ科魚類の分類学的再検討を主要研究課題として、総合博物館及び本学関係研究者等との共同研究を行います。Anderson 博士は非常に著名な研究者の一人で、分類が極めて難しいゲンゲ科魚類を精力的に研究し、非常に多くの業績を上げています。

北大は国内でも最も多くのゲンゲ科魚類の標本を有する研究施設の一つですが、本学に所蔵される標本を用いて、シロゲンゲ属をはじめとするゲンゲ科魚類の分類学的混乱の解決が期待されます。

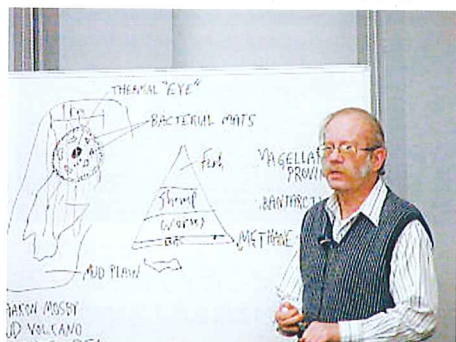
12 月 3 日には総合博物館市民セミナーにおいて「深海魚類探査：北極海と南極海における近年の調査から」の演題でご講演頂きました。

さらに平成 17 年 1 月には Anderson 博士を中心とした国際シンポジウムが函館で開催されました。

氏名：Michael Eric Anderson  
専門分野：魚類系統分類学  
略歴：1946 年アメリカ合衆国ユタ州ソルトレークシティ生まれ カリフォルニア州立大学卒業、ウィリアム & マリー単科大学バージニア海洋科学研究所博士課程修了、同大学より PhD 取得

現在、南アフリカ水圏生物多様性研究所主席研究員

今村 央 (研究部助教授/  
魚類系統分類学)



## 第20回企画展示 「内田正練とその時代 ー日本にクロールが もたらされた頃ー」

平成17年4月5日から6月5日までの間、第20回企画展示として日本最初のオリンピック水泳競技代表選手である北大生内田正練（うちだまさよし）氏の足跡をたどるパネル展を、総合博物館3階展示場にて北大水泳部と総合博物館の共催で開催しました。

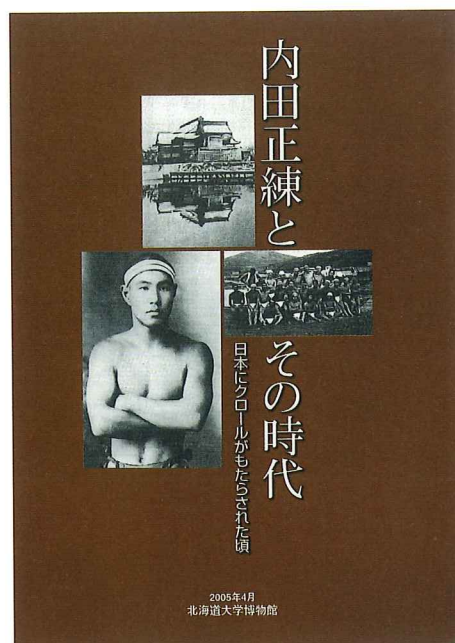
内田正練は当時日本最強と称せられた日本泳法の達人であり、この泳法をひきさげて大正9年（1920）に開催されたアントワープ五輪大会に臨んだのですが、世界のトップ選手達が泳ぐクロール泳法には歯が

立ちませんでした。この時、内田正練は世界の最先端のクロール泳法を日本へ持ち帰り普及に努めたのです。今日の日本水泳界の基礎を築いた同氏であります、その功績はこれまでほとんど世に知られていませんでしたので、同氏の業績を広く学内外の皆さんに知ってほしいと願いパネル展を企画しました。

本企画展は大変好評を博し、北海道新聞（4月6日朝刊、4月16日朝刊）、さんごサンデー（STVテレビ5月1日）、北海道百年物語（STVラジオ5月22日）で取り上げられました。

なお、図録を出版しましたので、興味のある方は博物館事務へお問い合わせ下さい。

三浦裕行（理学研究科講師／水泳部顧問）  
松枝大治（研究部教授／鉱床学）



## 第21回企画展示 「シベリア・マンモス展 ーマンモス絶滅の 謎に迫るー」

平成17年7月2日から8月27日までの間、第21回企画展示として1階常設展示の奥、北方圏展示室で開催しました。シベリアマンモスのミイラ化した臀部標本をメインとし、さらに考古標本や植物標本などの展示標本を追加して行い、開館以来の企画展示では最も大がかりなものとなりました。

た。

7月2日にはオープニングセレモニーを開き、記念講演会を行いました。さらに展示期間中には、学術講演会を1回、「夏休み子供セミナー」と銘打った小学生向けのセミナーを2回、そして展示最終日には、展示ツアーを企画しました。

展示期間中は、展示室において市民ボランティアの方々による展示解説が行われ、大変好評でした。

展示期間の約2ヶ月間で3万6千人余りが入館し、臨時のショップまで出る賑わいとなりました。

今後とも、夏休み期間には小中学生向けの魅力的な企画展示を開催する予定です。



低温研究所福田教授による市民への解説

## 第22回企画展示 「明日へ Tomorrow 展」

平成17年7月5日から7月30日までの間、第22回企画展示として「明日へ、Tomorrow展」を1階「知の統合コーナー」で開催しました。

北星余市高校を教育実践の場に再生させた岩本先生、愛称「ガンさん」と夫人のゆきこさんの作品展として開催され、新聞等にも大きく取り上げられました。

## 第23回企画展示 「フラメンコ人生を 唄い、踊り、奏でる ことー」

第23回企画展示「フラメンコ人生を唄い、踊り、奏でることー」を平成17年7月20日から平成17年8月7日まで、3階企画展示室で開催しました。

これは、毎年行われている、文学研究科北方文化論講座佐々木研究室の企画展示によるものです。博物館玄関前の屋外での踊りには多くの来館者が幾重にも人垣を作りました。また、「知の交流コーナー」での演奏会にも多くの市民がつめかけ、これまでの静的な展示とは違う、動的で北海道の夏にマッチした企画展示となりました。



## 第24回企画展示 「チョウとガに魅せられ た研究者たち」

平成17年8月2日から9月4日までの間、第24回企画展示として「チョウとガに魅せられた研究者たち」を1階「知の統合コ

ーナー」で開催しました。今回の企画展示は、本学名誉教授の近藤喜代太郎氏と茅野春男氏から寄贈された昆虫標本の新着展示として開催しました。

本館の常設展示では、これまで生物系の学術標本展示スペースが少なく今後の課題となっていました、今回の展示はその先駆けとなるものでした。子供連れの来館者も多く大変好評でした。



## 第25回企画展示 「アンモナイト展」

平成17年8月9日から9月4日までの間、第25回企画展示として「アンモナイト展」を3階企画展示室で開催しました。

展示は札幌中央化石研究会との共催の形で実施し、実際のフィールドでの化石採取法の紹介や、進化の極致のような大きく変形した化石が興味を引きました。

会場では会員の方による熱心な展示解説があり、手で触れる展示もあり、夏休み期間中の小・中学生の来館者に好評でした。



## 第26回企画展示 「持続可能な暮らしと社会」

平成17年9月10日から10月23日の間、ECOSコンサルタント、ドイツ連邦環境財団コミュニケーションセンターなどの企画として作成されたドイツ環境展ポスターの提供を受け、1階に展示しました。この作業には博物館実習生たちがあたりました。

## 第12回公開シンポジウム 「種分化モデルとしての サッポロフキバタ」

第11代客員教授ブグロフ博士を中心とした公開シンポジウムが平成17年9月16日に知の交流コーナーで開催されました。以下の3件の口頭発表が行われました。

Bugrov, A.G.: Chromosomal variation and speciation process in *Podisma sapporensis* (Orthoptera Acrididae).

Tatsuta, H.: Morphological and mitochondrial DNA variation of different chromosomal races in *Podisma sapporensis* (Orthoptera Acrididae).

菅野良一: サッポロフキバタに見られる雌雄の対立と集団間変異



## COE パラタクソノミスト講座

準自然分類学者（パラタクソノミスト）とは、自然史系学術標本・サンプルを正しく同定し整理する能力を有する者で、博物館や環境調査・教育において必要とされる人材です。

準自然分類学者は生物学分野では、分類学（タクソノミー）、生物多様性研究、環境アセスメント、環境教育の専門家をサポートします。地球惑星分野では、岩石学、鉱物学、鉱床学、古生物学の専門家をサポートします。

北海道大学21世紀COE「新・自然史科学創成」では、準自然分類学者の教育コースを新たに設置し、コース修了者には「準自然分類学者養成講座修了証」を発行しているところです。総合博物館はこの「21世紀COE新自然史科学創成」準自然分類学者養成講座をサポートしています。

平成17年度におこなわれた講座は以下のとおりです。

7月9日（土）  
「イネ科植物パラタクソノミスト養成講座（中級）」木場英久・高橋英樹  
（参加者10名）

8月8日（月）～9日（火）  
「甲虫パラタクソノミスト養成講座（初級）」片倉春雄・戸田正憲・大原昌宏・澤田義弘・吉田国吉  
（参加者12名）

8月9日（火）～10日（水）  
「魚類パラタクソノミスト養成講座（初級）」仲谷一宏・矢部衛・今村央  
（参加者11名）

8月13日（土）～14日（日）  
「昆虫パラタクソノミストJr.講座（初級）」大原昌宏・澤田義弘  
（参加者12名）

9月10日（土）～11日（日）  
「岩石鉱物パラタクソノミスト養成講座（初級）」松枝大治・新井田清信・三浦裕行  
（参加者20名）

9月17日（土）～18日（日）  
「昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）」共催：徳島県立博物館、大原賢二・大原昌宏・澤田義弘  
（参加者18名）

9月18日（日）  
「シダ植物パラタクソノミスト養成講座（中級）」佐藤利幸・高橋英樹  
（参加者12名）

9月25日（日）  
「化石パラタクソノミスト養成講座（初級）」小林快次  
（参加者15名）

10月1日（土）～2日（日）  
「ハエ目昆虫パラタクソノミスト養成講座（中級）」館卓司・戸田正憲  
（参加者11名）

10月22日（土）～23日（日）  
「甲虫目パラタクソノミスト養成講座（中級）」大原昌宏・澤田義弘・Piotr Wegzynowicz  
（参加者12名）

10月28日（金）～30日（日）  
「海鳥・小ほ乳類の仮剥製講座（中級）」綿貫豊・増田隆一・市川秀雄  
（参加者9名）

11月5日（土）～6日（日）  
「岩石・鉱物パラタクソノミスト養成講座（中級）」松枝大治・新井田清信・三浦裕行  
（参加者15名）

パラタクソノミスト養成講座特別企画野外採集会  
10月9日（日）  
「豊平川河川敷と豊羽鉱山周辺での岩石・鉱石採集」松枝大治・三浦裕行  
（参加者31名）

## < 寄稿 >

### 潜水艇による 深海魚調査

過去30年にわたり、私は主に深海魚の研究をしてきましたが、近年では、両極域、特に南極大陸沖と亜南極域に生息する魚類の研究に取り組んできました。本稿では、これまで私が参加した調査の一部についてご紹介します。

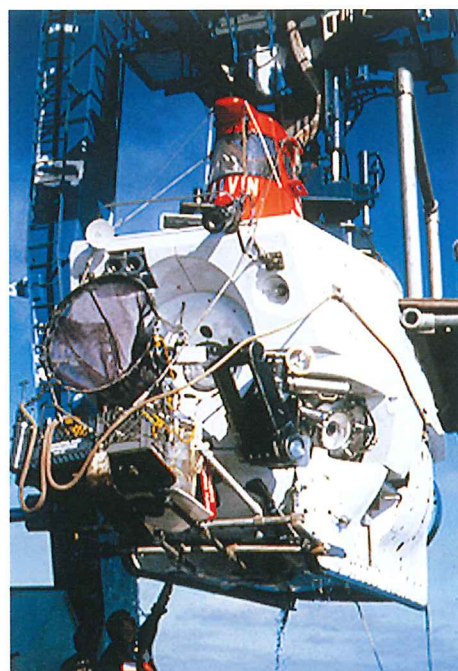
私の北極での深海調査は1970年代後半から始まり、1980年にはロシアの調査船であり、二つの深海調査艇「ミール1号」と「ミール2号」の母船である「アカデミック・ムスティスラフ・ケルダッシュ号」による国際調査のメンバーになりました。この調査の目的は、大西洋の北極域の海底で発見されていたメタン噴出部に潜水することであり、私たちには海中の溶存ガスの検査、噴気口の地理的構造の解明、孤立した場所で形成されている生物群集の解明などが求められていました。この調査はアメリカ海軍調査研究室とロシア科学アカデミーが共同で実施しました。私たちはノルウェー北部からスヴァールバル列島西部で、28回にわたって1240-3780mの水深帯の深海調査を行い、最北部の調査は北緯79度15分で行いました。この調査での私の担当は母船上での仕事で、指定された水域の魚類の個体数の確認と、潜水艇とトロール網による生物学的調査用の魚類標本の採集でした。私の研究上の成果としては、スヴァールバル列島の水深3460mでの潜水調査の結果から、特定漁種の食性、個体数調査の結果、および生物相の観察結果などの成果を論文として発表することができました。



潜水準備中の「ミール1号」

私が実際に潜水艇に乗船したのは、ウッズホール海洋研究所によって行われた、潜水艇「アルビン号」の母船であるアメリカの「アトランティス2号」による航海が初めてでした。ウッズホール海洋研究所とは、個人資金の他、アメリカ国際潜水計画、多くの大学、その他の研究機関などからの寄付金で運営されている施設です。この調査の目的は、カリフォルニア南部の海底近辺に生息する無脊椎動物の採集と生理機構の研究、および海底斜面上部の生物群集の解明です。1985年にカリフォルニア南部沖で、私は1600-1780mの水深帯に潜水し、魚類の個体数調査を行ったのです。また、この調査で私たちは表層から深海底域への生物資源の移動量の推定も行いました。

フォークランド諸島からサウス・サンドイッチ諸島までの亜南極域の魚類標本を採集するため、2004年には別の国際調査に参加しました。ICEFISHと呼ばれるこの調査は、亜南極域に生息する動物の進化を研究する国際チームによって実施されました。参加したのは8カ国の生理学者、遺伝学者、系統分類学者、および生態学者です。私たちはトロール網などで魚類を採集した他、魚類の個体数を調査するためROVと呼ばれる無人テレビカメラで海中撮影を行いました。この調査での主な収穫は、数種の魚類の個



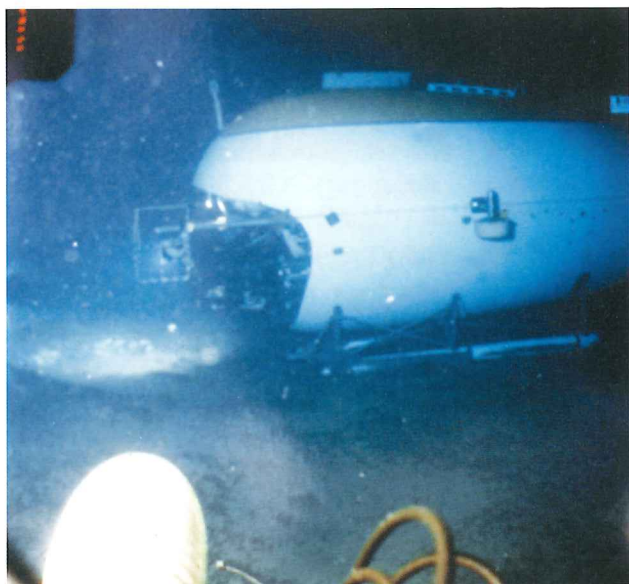
潜水準備中の「アルビン号」



「アルビン号」から撮影された  
ガンギエイ類

体群を海域別に確認できたことと、生物相が貧弱な中央大西洋の島々を比較できたことです。この海域での遺伝子を用いた魚類の個体群調査はまだ研究途上にあり、ICEFISHは今後、太平洋とインド洋で2回の航海を計画しています。

アンダーソン M.E. (客員教授：平成17年10月20日～平成18年1月20日／  
魚類系統分類学)  
和訳：今村 央 (研究部助教授／  
魚類系統分類学)



「ミール2号」から撮影した「ミール1号」



南極域から採集されたゲンゲ科魚類の一種  
*Pachycara brachycephalum*

## 平成17年4月から平成17年9月までにおこなったセミナー・講演会

第90回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「噴火・地震・津波災害の直撃回避を支える科学―映像で学ぶ」  
岡田 弘（理学研究科・地震火山観測センター・教授）  
日時：4月9日（土曜日）13:30～15:00（参加者約80名）

第91回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「北大キャンパスの野鳥・説明会」  
安岡 徹（北大野鳥研究会・部長）  
日時：4月16日（土曜日）13:30～15:00（参加者約20名）

第92回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「北大キャンパスの野鳥・第1回野鳥観察会」  
北大野鳥研究会  
日時：4月23日（土曜日）13:30～15:00（参加者約10名）

第93回 北大総合博物館セミナー  
21世紀COE「新・自然史科学創成」総合博物館・市民セミナー  
「深海で生まれた大地―日高山脈西部の地層から中央北海道の生い立ちを考える―」 植田勇人（理学研究科・COE研究員）  
日時：4月23日（土曜日）13:30～15:00（参加者約60名）

第94回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「道産馬（ドサンコ）―その特徴と歴史」  
近藤誠司（農学研究科・教授）  
日時：5月14日（土曜日）13:30～15:00（参加者約40名）

第95回 北大総合博物館セミナー  
21世紀COE「新・自然史科学創成」総合博物館・市民セミナー  
「アリと共生するアブラムシの生態と進化」  
八尾 泉（理学研究科・COE研究員）  
日時：5月28日（土曜日）13:30～15:00（参加者65名）

第96回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「ロシアの森林はどうなっているのか？―世界最大の森林国の現状―」 柿澤宏昭（農学研究科・助教授）  
日時：6月11日（土曜日）13:30～15:00（参加者58名）

第97回 北大総合博物館セミナー  
21世紀COE「新・自然史科学創成」総合博物館・市民セミナー  
「石油から見える生命と地球の進化」  
鈴木徳行（理学研究科・教授）  
日時：6月25日（土曜日）13:30～15:00（参加者約50名）

第98回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「北大最初的女子学生」  
逸見勝亮（北海道大学・副学長）  
日時：7月9日（土曜日）13:30～15:00（参加者69名）

第99回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「明日へTomorrow」  
岩本ゆきこ（北星余市高校ガンさん夫人）  
日時：7月10日（日曜日）13:30～15:00（参加者約60名）

第100回 北大総合博物館セミナー  
21世紀COE「新・自然史科学創成」総合博物館・市民セミナー

「土の中の昆虫―足下の多様な世界」  
澤田義弘（理学研究科・COE研究員）  
日時：7月23日（土曜日）13:30～15:00（参加者約70名）

第101回 北大総合博物館セミナー 子供夏休みセミナー  
「恐竜とマンモス」 小林快次（総合博物館・助手）  
日時：7月30日（土曜日）13:30～15:00（参加者約150名）

第102回 北大総合博物館セミナー 子供夏休みセミナー  
「マンモスと氷河時代の狩人」  
加藤博文（文学研究科・助教授）  
日時：8月3日（水曜日）13:30～15:00（参加者約160名）

第103回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「ライラック観測網」  
船越三朗（北方生物圏フィールド科学センター・助手）  
日時：8月13日（土曜日）13:30～15:00（参加者49名）

第104回 北大総合博物館セミナー  
21世紀COE「新・自然史科学創成」総合博物館・市民セミナー  
「微化石が刻む海の歴史」  
萩野恭子（理学研究科・COE研究員）  
日時：8月27日（土曜日）13:30～15:00（参加者約70名）

第105回 北大総合博物館セミナー 土曜市民セミナー  
「北海道周辺で急激に変化する台風や低気圧―2004年台風18号を科学する―」  
遊馬芳雄（理学研究科・講師）  
日時：9月10日（土曜日）13:30～15:00（参加者約90名）

第106回 北大総合博物館セミナー  
21世紀COE「新・自然史科学創成」総合博物館・市民セミナー  
「海の巨大爬虫類オサガメはなぜ潜るのか」  
田中秀二（理学研究科・COE研究員）  
日時：9月24日（土曜日）13:30～15:00（参加者約50名）

第107回 <企画展示「シベリア・マンモス展」記念講演会>  
「マンモス絶滅の謎に迫る」 福田正己（低温科学研究所・教授）  
「シベリアにマンモスを求めて」 中谷聡・松田猛司（日本テレビ）  
日時：7月2日（土曜日）13:30～15:00（参加者約200名）

第108回 <カルチャーナイト2005（エルムの森広場）>  
「夏の星座の楽しみ方」 菅原章介（元苫小牧科学センター館長）  
「マカリイ・大きな島の星の子たち」 野外上映会  
日時：7月22日（金曜日）16:30～21:40（参加者約80名）

第109回 <企画展示「シベリア・マンモス展」学術講演会>  
「マンモスのDNAと系統進化の探求」  
増田隆一（創成科学研究機構・助教授）  
日時：7月23日（土曜日）10:30～12:00（参加者約80名）

第110回 <企画展示「シベリア・マンモス展」セミナー・展示ツアー>  
「マンモス絶滅の謎に迫る」  
福田正己（低温科学研究所・教授）  
日時：8月27日（土曜日）15:30～16:30（参加者約70名）

## 平成 17 年 4 月から平成 17 年 9 月までの主な出来事

4月2日 第31回山口県少年少女の船一行見学(130名)  
4月5日 第20回企画展示「内田正練とその時代」展(5月8日まで)  
4月29日 札幌農学校第2農場一般公開(11月3日まで)  
5月1日 小林快次助手(古生物学)着任  
5月12日 旭川北高校生徒見学(97名)  
6月1日 第11代客員教授A.G. ブグロフ博士(昆虫学)着任  
6月21日 大阪大学大学院工学研究科長一行見学(6名)  
6月22日 京都府立菟道高校生徒見学(316名)  
6月30日 新冠町議会議員一行見学(19名)  
7月1日 小俣友輝助手(博物館情報学)着任  
7月2日 第21回企画展示「シベリア・マンモス展」(8月27日まで)  
7月5日 第22回企画展示「明日へTomorrow展」(7月30日まで)  
7月6日 三重県立桑名高校生徒見学(376名)  
7月7日 北海道情報大学交換留学生見学(30名)

7月8日 北海道高等学校長協会石狩支部一行見学(70名)  
7月15日 奈良人司内閣参事官見学(1名)  
7月20日 第23回企画展示「フラメンコ」展(8月7日まで)  
7月20日 恵庭市長寿大学一行見学(130名)  
7月22日 「カルチャーナイト2005」参加による博物館夜間開放および野外上映会(延べ201名)  
8月1日 西里静彦トロント大学名誉教授見学(1名)  
8月2日 第24回企画展示「チョウとガに魅せられた研究者たち」(8月7日まで)  
8月9日 第25回企画展示「アンモナイト」展(9月4日まで)  
8月12日 北海道教育大岩見沢校「博物館学Ⅱ講座」実習見学(16名)  
8月18日 札幌市立稲穂小学校PTA家庭教育学級一行見学(51名)  
8月30日 総合博物館入館者20万人達成  
9月1日 函館東高校生徒見学(260名)  
9月5日 博物館実習(9月13日まで)  
9月30日 マレーシアサラワク大学一行見学(7名)

### お知らせ

●第27回企画展示「北大生の夏展」が平成17年10月25日から11月20日まで開催されました。

●第28回特別企画展示「北海道の道草をスケッチするーとくに帰化植物をみつめて」が平成17年11月22日から平成18年1月20日まで開催されました。

●第29回企画展写真同好会写真展示「四季彩色～北大キャンパスの移ろう季節」が平成18年1月31日から2月12日まで開催されています。

◆  
●第30回企画展示「北大樺太研究の系譜ーサハリンの過去・現在・未来」が平成18年2月18日から5月7日までの予定で開催されます。

本展示においては、植物学、古生物学、地質学、植民学などの分野での、北大研究者が樺太で行ってきた研究の足跡を振り返り、最近の研究の展開、将来の展望について紹介します。特に、「植物学の宮部金吾」、「古生物学の長尾巧」、「植民学の高岡熊雄」などにスポットをあてながら、これまで一般公開されなかった貴重な学術資料の展示が行われます。是非ご覧下さい。また関連セミナーとして以下の講演会が博物館1階「知の交流コーナー」で予定されています。是非ご来聴下さい。

2月19日(日曜) 高橋英樹「樺太における植物探検調査の歴史と展望」・イシチェンコ「サハリン紹介」

3月4日(土曜) 阿部剛史「サハリンの海藻」

4月1日(土曜) 竹野 学「北大植民学の樺太研究」

4月15日(土曜) 小林快次「サハリンにおける古生物学研究の展開」・川村信人「地質屋たちの肖像ーデスモスチルス発掘と“長尾ノート”」

4月29日(土曜) 天野哲也「オホーツク文化の解明に挑むー北海道・樺太・千島」

5月6日(土曜) 岡孝雄「北海道と大陸をつなぐ島ーサハリンの地質と地下資源」

### お礼

以下のボランティアの方達に、学術標本作製・展示解説・企画展示準備等で協力いただきました。謹んでお礼申し上げます(平成17年4月～平成17年9月)。

植物標本(市民・職員): 今村ひろこ、小池武子、小淵修子、金上由紀、桂田泰恵、久志本アイ、黒田シズ、高橋美智子、高橋陽子、近久喜枝、矢島慶子、与那覇モト子、小林孝人、成田真澄、加藤ゆき恵。

植物標本(学生): 佐藤広行、村上麻季、井澤岳師、宮澤誠治、田畑倫子、持田誠、サルワル・AKM. グラム、藤村善安、山室育子、中谷曜子、川床俊夫、国安岳、上原久美子、岩崎健、川角法子、栗原太郎、堀端純平、自然保護研究会(岩瀬良太、笹木博之、田中宏樹、村上知子、吉田恵理、荻野篤史、前島崇広)。

昆虫標本: 久万田敏夫、梅田邦子、大島一正、小林憲生、競あすみ、大江ひろみ、内田亜希。

古生物学: 望月直、相原大介、中野系、蛭田明宏。

考古学: 笠原明子、前田志乃、長屋恵、佐野央馬、鈴木理沙、ロバート・クルツ、永山修、寺西辰郎、内田亜希、競あすみ、大江ひろみ、北越美紀子。

鉱物学: 鳥本准司、山崎敏晴、藤川修、永富真紀子、甕聡子、橋本知世、高橋亮平。

展示解説: 清水良平、岡田美佐子、上田若菜、長谷睦。

\*\*\*\*\*

### 北海道大学総合博物館ニュース 第12号

\*\*\*\*\*

北海道大学総合博物館ニュース

編集: 高橋英樹

発行日: 2006年(平成18年)1月・発行者: 藤田正一

発行所: 北海道大学総合博物館

住所: 060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

電話: 011-706-2658・FAX: 011-706-4029

E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

http://www.museum.hokudai.ac.jp/

印刷: 株式会社アイワード